

2025年12月期 第2四半期決算説明資料 株式会社 モンスターラボ (証券コード : 5255)

2025年8月14日

Monstarlab ::

Contents

1. FY2025 Q2連結業績概要
2. FY2025 Q2トピックス及び成長戦略
3. Appendix

2025年Q2は、安定的な利益創出を継続し債務超過を解消。 今後はAI活用を始めとする差別化と成長戦略の実行に注力する

単位：百万円

	FY2025 Q2 累計実績	FY2025予想	進捗
売上収益	3,778	8,517	44.4%
営業利益又は営業損失	126	360	35.1%
税引前利益又は税引前損失	-358	274	—
親会社の所有者に帰属する 当期純利益又は当期純損失	-253	206	—

- 例年Q2は季節性要因によって売上が落ち込む傾向があるが、今期については売上はQ1推移でほぼ横ばいを維持できており、営業利益も黒字を確保。
- 引き続き円高の影響を受け、外貨建資産の為替評価損を累計約3.6億円(Q2約1.5億円)計上し税引前利益ではマイナスとなるも、キャッシュフローへは影響なし。
- 例年下期で売上が増加する傾向にあり、足元の受注状況も好調のため、売上や、本業を評価する上で最重要となる営業利益の計画達成の確度は高まっている。一方、税引前および当期純利益は為替影響が大きいいため継続的にモニタリングする。

Topic 1

資本調達が順調に進捗し、4-6月に21.3億円を調達。債務超過が解消された

- MSワラントにより20.6億円を調達し、全量が行使完了となる
- 経営陣による増資を実施し、70百万円を調達。資本を強化すると共に、経営のコミットメントを高める

Topic 2

AI駆動開発を起点に戦略及び組織を再設計。AIネイティブな開発パートナーへの基盤を整備

- 開発プロセスのあらゆる領域でAIを活用することで、高品質化と高生産性を実現。組織的なAI活用を推進するための社長直轄組織である、「センター・オブ・エクセレンス」を立ち上げ
- モンスターラボ独自のAIソリューションについても継続的にR&Dを実施。2025年下期で、プロダクト開発スピードを大幅に向上させる、独自のマルチAIエージェントをローンチ予定

FY2025 Q2

Q2連結業績概要



季節的な下降圧力を受けつつも、Q1に引き続き連結営業黒字を達成

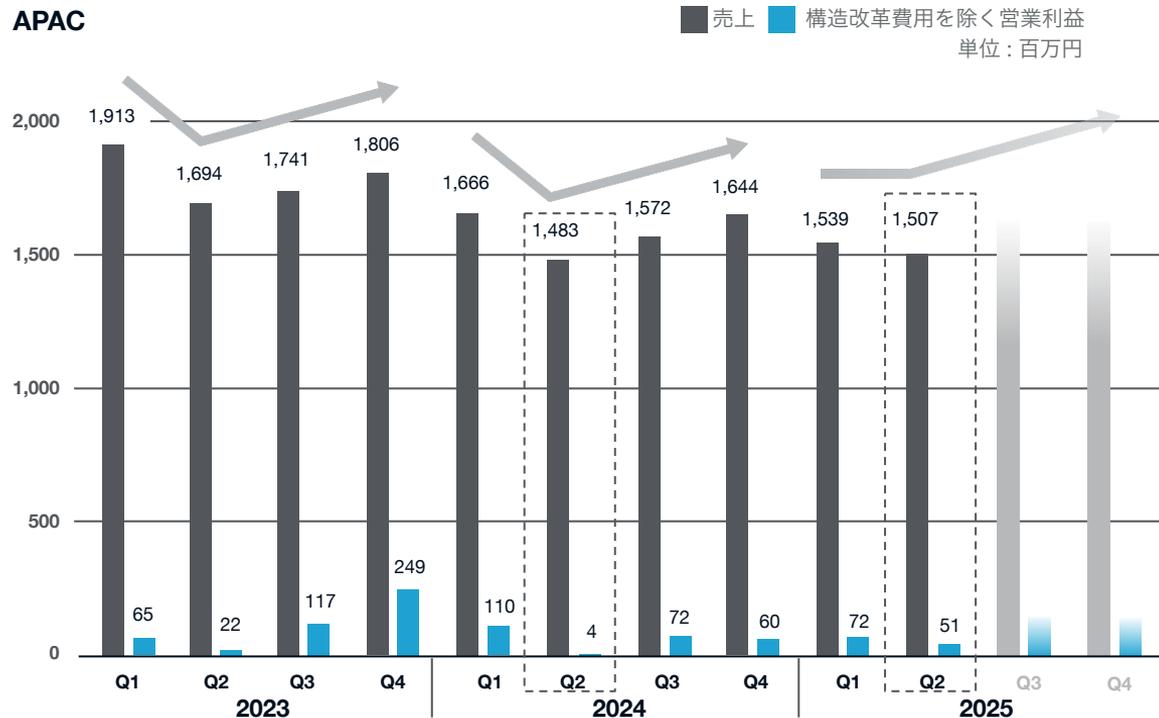
例年、季節性要因で売上が減少するQ2においても安定的な売上収益を維持し、当社が成長路線への回帰を実現しつつあることを裏付けた。一方で国際会計基準に則り未消化の有給休暇に対して費用計上しており、4月の有給付与直後であることからQ2営業利益を約40百万円押し下げている

単位：百万円

	FY2024				FY2025			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	前四半期増減率 QoQ	前年同期増減率 YoY
売上収益	3,179	2,542	2,221	2,060	1,899	1,879	-1.1%	-26.1%
売上収益 (EMEAを除く)*	1,964	1,872	1,966	2,012	1,899	1,879	-1.1%	+0.4%
売上原価	2,507	2,666	1,955	1,448	1,164	1,191	+2.3%	-55.4%
売上総利益 (率)	671 (21.1%)	-124 (-)	265 (11.9%)	612 (29.7%)	735 (38.7%)	688 (36.6%)	-6.4%	—
販売費及び一般管理費	1,577	1,837	1,307	2,497	666	683	+2.6%	-62.8%
その他の収益	18	8	1,167	0	25	30	—	—
その他の費用	4	4,145	901	617	1	2	—	—
営業利益/損失	-891	-6,099	-776	-2,502	93 (4.9%)	32 (1.7%)	-65.2%	—
構造改革等一時要因	—	779	330	1,669	—	—	—	—
のれん等減損	—	4,140	—	920	—	—	—	—
構造改革費用と減損を除く 営業利益/損失 (率)	-891 (-)	-1,179 (-)	-445 (-)	87 (4.2%)	93 (4.9%)	32 (1.7%)	-65.2%	—
税引前利益/損失	-268	-5,505	-2,031	-2,040	-171 (-)	-186 (-)	—	—
親会社の所有者に帰属する 当期純利益/損失	-340	-5,553	-1,841	-2,213	-137 (-)	-115 (-)	—	—

*2024年のEMEAを中心とした拠点撤退を含む大規模な構造改革を踏まえ、当期との比較可能性を保つため、EMEA拠点を除いた売上収益額を表示しております

APAC：構造改革後、初めて売上・利益ともに前年同期比成長



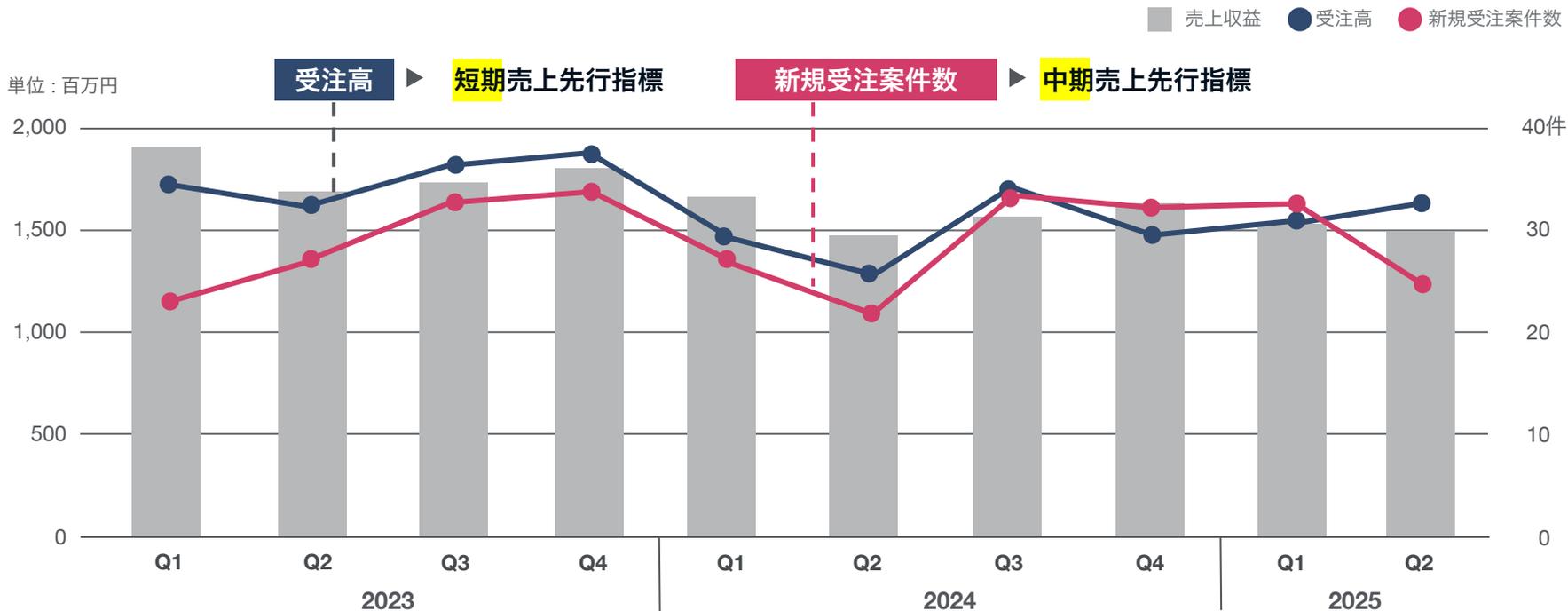
- 顧客の決算期である12月と3月は毎年案件の切り替わりが多く起こるため、第2四半期は例年約2億円の売上減少が起こっていたが、今期は概ね横ばい。結果、前年同期比を上回る。

- 昨年度から固定費を削減したことにより、前年同期比では売上増加以上に利益面は大幅に向上している。

- 案件内容としても戦略通りAI関連の案件が獲得出来ており、定量・定性の両側面で再成長への転換が進展している。

APAC：売上・利益と同じく、受注高・新規案件数も前年同期比で増加

- 受注高の増加は主に既存案件のアップセルであり、既存顧客の売り伸ばしが増えている。
- 新規受注案件数25件のうち18件が開発案件となり、過半数以上を占める。

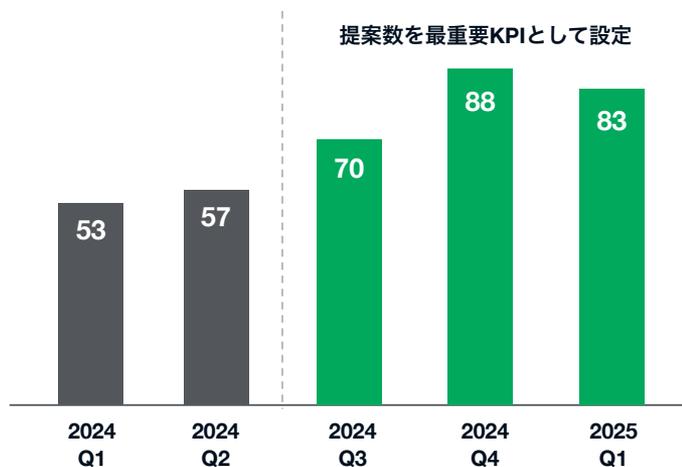


2024年8月以降、提案数をKPIとした営業強化により受注の積み上げを実現。 今後は成長戦略の進展を踏まえ、大口顧客数/顧客別売上の向上を重視

これまでの取り組み

2024年8月より、提案数を最重要KPIとして設定。セールスが注力すべき指標を絞って明確化し、アップセル・クロスセルを強化

→ 売上基盤の強化に貢献

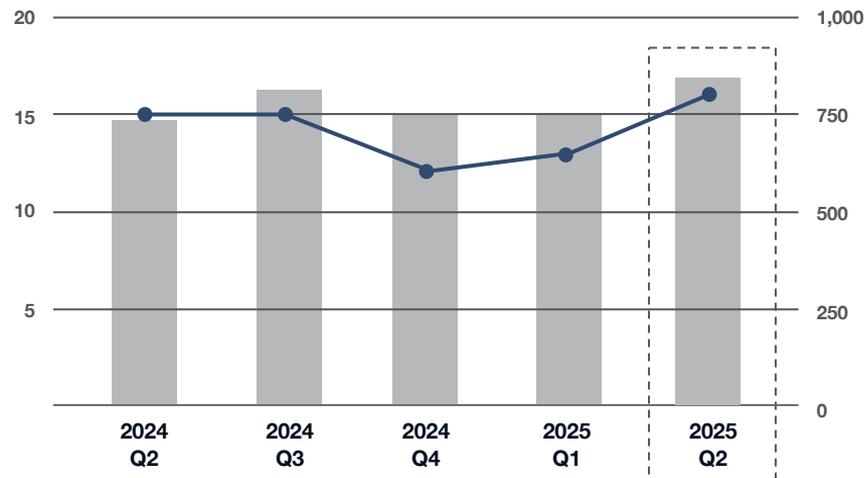


今後重要視するKPI

成長基盤構築および、データ領域・AI活用など成長戦略の進展を踏まえ、**大口顧客数・大口顧客売上(合計)**を新たなコアKPIとして位置づけ

● 大口顧客（年間1億円～）数 ■ 大口顧客（年間1億円～）売上

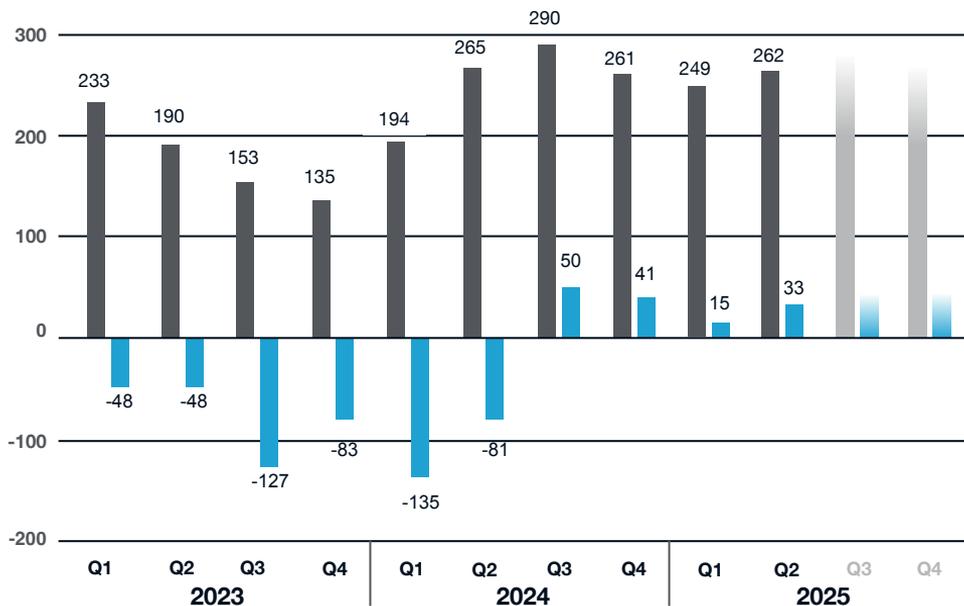
単位：百万円



AMER：継続性の高い案件により、安定的な売上及び利益積上げが実現。 盤石な事業基盤を構築

AMER

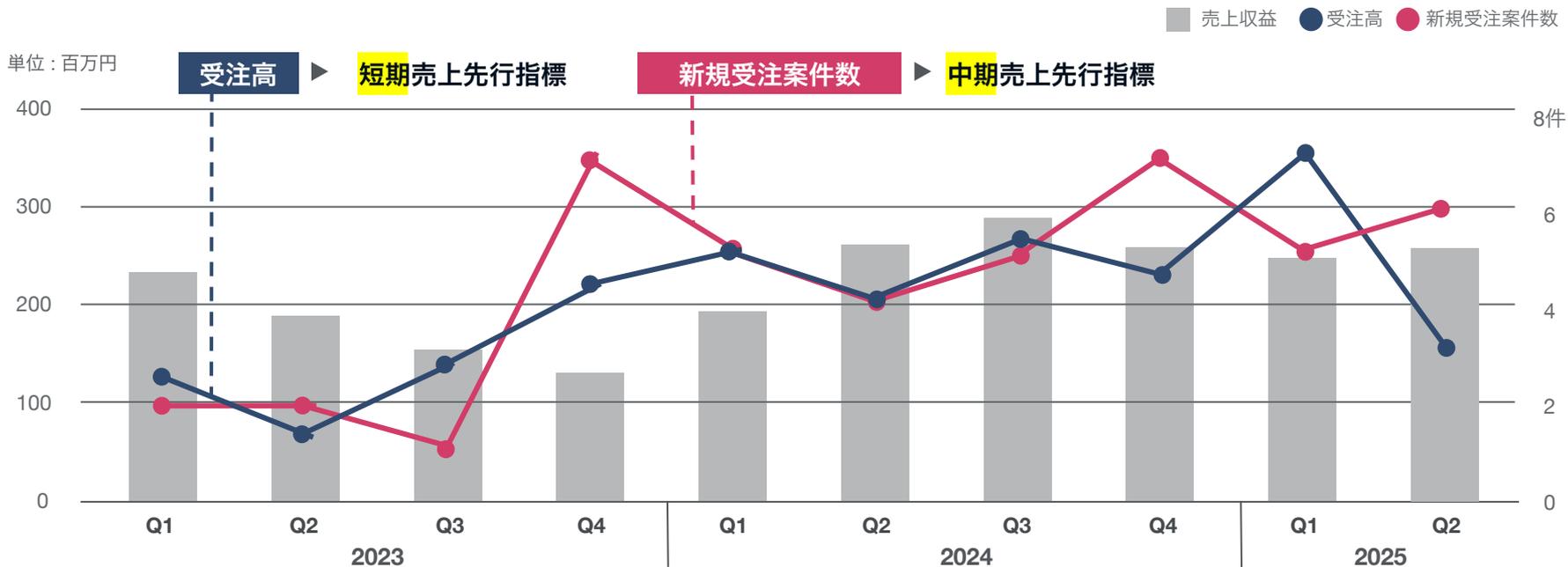
■ 売上 ■ 構造改革費用を除く営業利益
単位：百万円



- 既存大手クライアントを中心に安定的なパイプラインを構築しており事業環境は安定的に推移。継続性の高い大規模案件の獲得ができていることで稼働が本格化しており、今後の成長に向けて盤石な基盤を築きつつある。
- 今後は、引き続きAdyen、Stripeなどの決済ソリューション企業との提携を活かすと共に、マーケティング活動も本格化させることで、更なる成長に向けたパイプライン強化を図る。

AMER：前四半期で継続性の高い大規模案件を獲得したことで、当四半期の売上は安定的に推移

- 大手ペイメントソリューション企業との協業や、プロセスオートメーション、プロダクト開発領域にマーケティング及びセールスを集中
- それに伴って案件獲得のパイプラインが強固になると共に、継続性の高い大規模案件の獲得が可能となっている

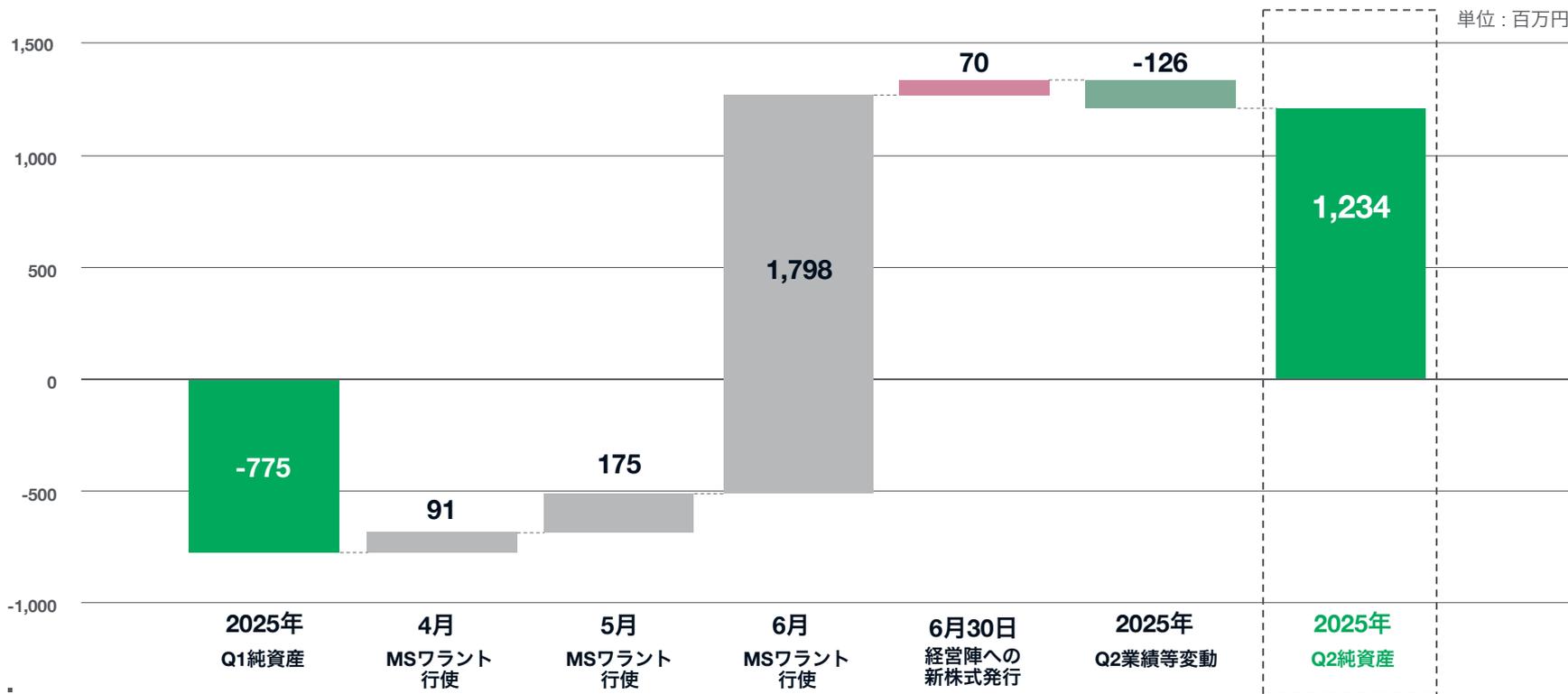


大規模な開発案件に加え、戦略通り生成AI案件やペイメントソリューション案件を順調に受注

- APACでは海外チームを活用した開発案件に加え、生成AI関連の独自ソリューションを活用した案件を複数受注
- AMERにおいては長期かつ大規模なペイメントソリューション案件を受注

業種	案件概要
HRテック	HRテック企業向け、AI機能を実装した新規プロダクト開発・機能拡張
製造	生成AIを活用した商談ロープレボット開発
製造	データ基盤構築とData Analyze AIを活用したアフリカ販売拡大の戦略立案支援
教育	独自マルチAIエージェントを活用した学校向け業務管理システムの開発
ヘルステック	クラウド型医療ソフトウェア提供企業に対するペイメントソリューション導入

資本調達が大きく前進。Q2時点において債務超過を解消し、財務状況が健全化。 MSワラントは全量の行使が完了



4-6月での大規模な資本調達により現金・資本が大幅に増加し、債務超過が解消。 今後はAI領域の伸長、人材等への投資により成長戦略を推進

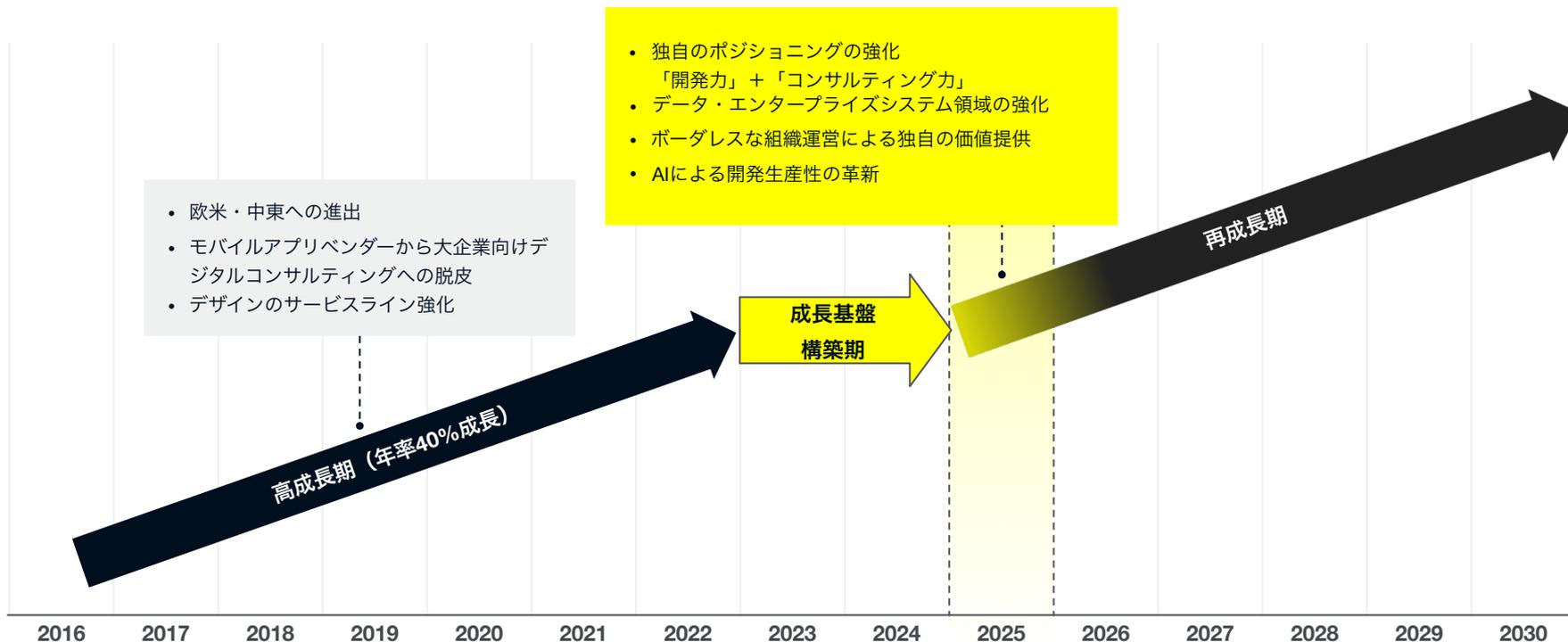
単位：百万円

	2025 Q1	2025 Q2	増減	増減率
流動資産	3,198	5,431	+2,232	+69.8%
現金及び現金同等物	1,920	4,131	+2,210	+115.1%
非流動資産	4,600	4,292	-308	-6.7%
資産合計	7,799	9,723	+1,924	+24.7%
流動負債	6,500	2,011	-4,489	-69.1%
非流動負債	2,073	6,477	+4,403	+212.3%
資本	-775	1,234	+2,009	—
負債及び資本合計	7,799	9,723	+1,924	+24.7%

FY2025 Q2

トピックス及び成長戦略

2024年における成長基盤構築は2025年Q1において成果を見せ始めており、 2025年からは再成長路線への回帰を目指す



成長に向けた3つの柱

1

データ・エンタープライズ システム領域強化

- 得意とするSoE領域の価値を高めるデータ領域強化（位置情報データ、価格感応度等の購買行動データなど）
- 生成AIを活用したエンタープライズシステム開発強化（Code Rebuild AIの継続的機能強化等）
- データ・エンタープライズ領域の統括責任者を新規採用し、専属組織を立ち上げ

2

ボーダレスな組織運営による 独自の価値提供

- 世界でも豊富なエンジニア人材を抱える地域で大規模開発拠点を有している強みと、日本及び欧米での豊富なデジタルコンサルティングの実績を組み合わせることで付加価値を提供
- デザインと開発のボーダレスな組織運営により、他社にない付加価値を提供

3

AIによる生産性革新及び AIソリューションの提供

- システム開発プロセスのあらゆる工程でAIを導入することで生産性を圧倒的に向上し、開発期間の短縮や価格競争力を強化
- 当社が開発するシステムへのAIの組み込みによる高度化したソリューションを提供
- AIエージェント等により、クライアントの業務をAIを活用して改革するソリューションを提供

本トピックの対象

モンスターラボにおけるAI対象領域は3つ

AI駆動開発



AIを開発プロセスに入れて**生産性を抜本的に向上**。品質や価格に反映させることで優位性を生み出していく

AIの製品への組み込み



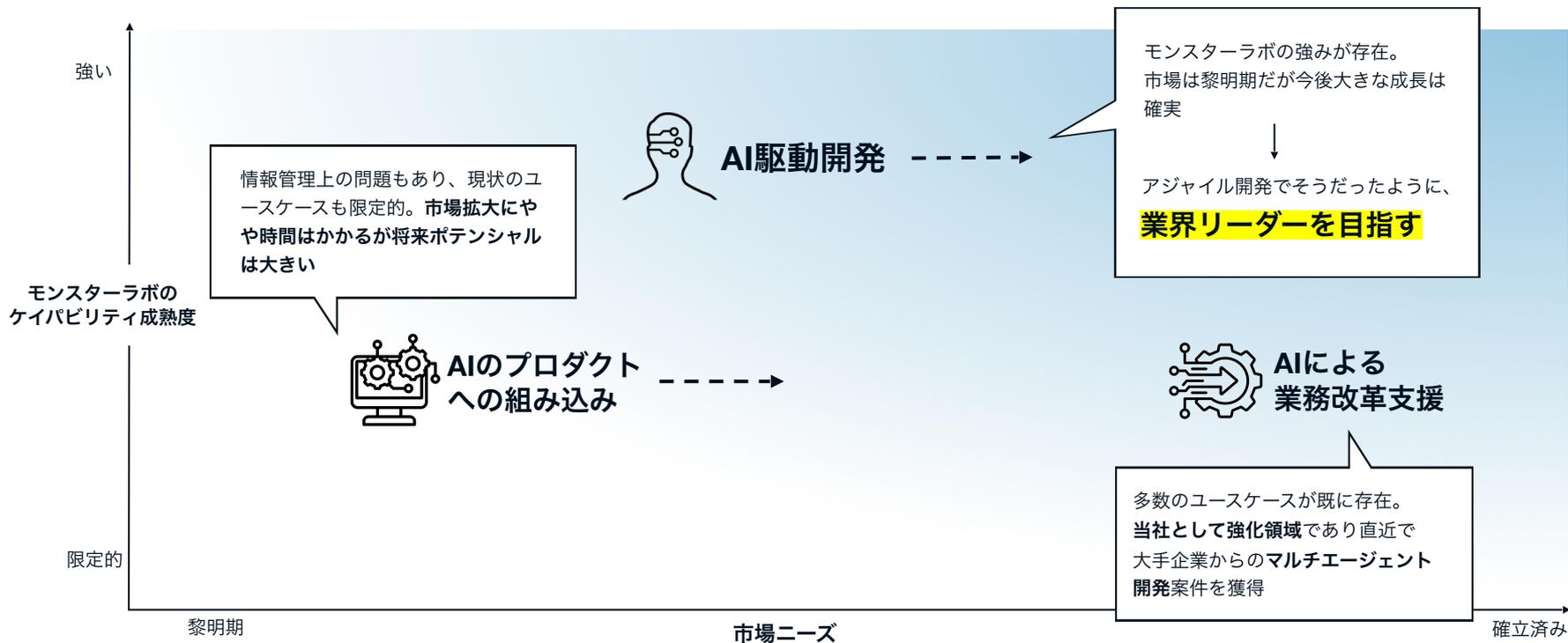
当社が開発するシステムにAIを機能として実装することで、**他社に比べて高度化したソリューション**を提供していく

AIによる業務改革支援



クライアントの業務をAIを活用して改革し、**生産性や付加価値向上を実現する**ソリューションを提供していく

モンスターラボのケイパビリティ及び市場ニーズ拡大を見込み、 AI駆動開発で業界リーダーを目指す他、マルチエージェント開発なども進む



AI駆動開発の強化を主体的に担う「センター・オブ・エクセレンス」を、社長直轄組織として立ち上げ

センター・オブ・エクセレンス

ガバナンス

AIの利活用を安全かつスピーディに全社展開するためのルールと仕組みを整備し、継続的に運用

- 社内ルールの定期的な見直しと利用実態に合わせた更新
- 現場の創意工夫やPoC推進の支援しながら取り組み状況を管理
- リスクやセキュリティ上の懸念を事前に確認する仕組みを導入

オペレーショナルエクセレンス

各部門に最適な形でAIを活用し、業務改善を継続できる仕組み（ベストプラクティス）を構築

- 部門ごとにAIの効果が大きい業務を見極め、段階的に導入
- トレンドや技術の変化に対応できる「生きた標準」の構築
- 各部門で生まれた成功例や失敗例を蓄積して全社で活用

データプラットフォーム

AI活用の効果を可視化し、経営判断や業務改善につなげるデータ・KPI基盤を整備

- ツールや施策の効果を継続的にモニタリング
- 成果を数値で示すため、KPI/KGIを定義し、ダッシュボードで見える化

AI駆動開発のプラットフォームとして、独自のマルチAIエージェントを開発。 社内導入と合わせ、今後製品化していく見込み



独自のマルチAIエージェント

事業アイディエーション

- 数百ある過去プロジェクトの要件定義書をベースに独自エージェントを開発
- 新たな事業アイデア等をAIエージェントと10~20分議論することで、要件定義書を自動で生成

市場調査

- 業界及び競合企業のデータを取得
- 新規サービスに合わせた具体的なシステム要件の整理をサポート

ワイヤーフレーム作成

- 数百ある過去プロジェクトのアプリのワイヤーフレームをベースに独自のエージェントを開発
- 新たな事業アイデア等をAIエージェントと10~20分議論することで、ワイヤーフレームを自動で生成

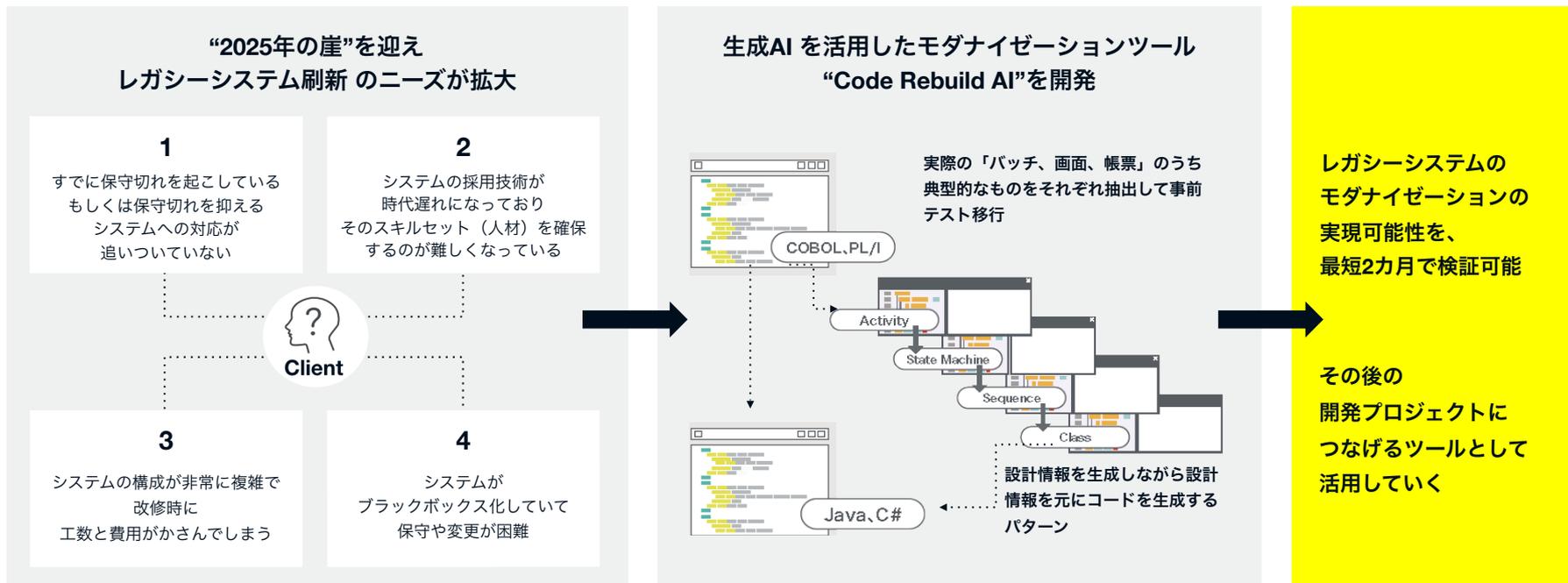
コーディング

- コード生成やリファクタリング、バグ検出などをAIがアシスト
- コーディングのベストプラクティスやセキュリティ基準への準拠をサポート



新規事業の製品開発で、**従来の18倍の生産性向上**を実現

生成AIを活用しエンタープライズ領域のモダナイゼーションを実現する 「Code Rebuild AI」(CRA)を独自開発



CRAを起点に、モンスターラボが強みとするAI駆動開発やアジャイル開発、UI/UXを組み合わせることで、1~2年でのモダナイゼーションを実現

	検証 (2~4か月)	本開発 (1年程度)	本番立ち上げ・拡張 (中長期で伴走)
目的	CRAを活用したフィージビリティスタディ・プランニング	CRAによるモダナイゼーション。ブラックボックス化しているシステムをホワイトボックス化	ホワイトボックス化したシステムを順次拡張。新機能追加
アプローチ	アジャイル開発	ウォーターフォール開発	ウォーターフォール開発
アウトプット	<ul style="list-style-type: none">● CRA適合検証 アプリケーションの現状分析、結果検証● CRA全体計画 ToBeアーキテクチャーの最適化検討により全体規模感見積、全体計画案策	<ul style="list-style-type: none">● CRAによる機能解析と要件定義● UI/UXチームによる効率性を考慮した画面デザイン● AI駆動によるシステム開発● 業務チームによる業務改善提案● 結合・総合テスト	<ul style="list-style-type: none">● 通常のシステム開発プロセスを適用 要件定義、AI駆動によるシステム開発、結合テスト、UAT

データ・エンタープライズ領域の本格展開に向けて、 組織面での強化を着実に進めている

1

データ・エンタープライズ領域の 専属組織を立ち上げ

- 2025年4月の組織改編で、データ・エンタープライズ領域のソリューションを専門的に提供する組織として「Enterprise DX」（約35名）を立ち上げ
- 特に、レガシーシステムのモダナイゼーション領域において、Code Rebuild AIやアジャイル開発、先進的UIなど、モンスターラボならではの強みを活かしたソリューションを提供

2

データ・エンタープライズ領域に関して豊富な知見を有する統括責任者が新たに参画



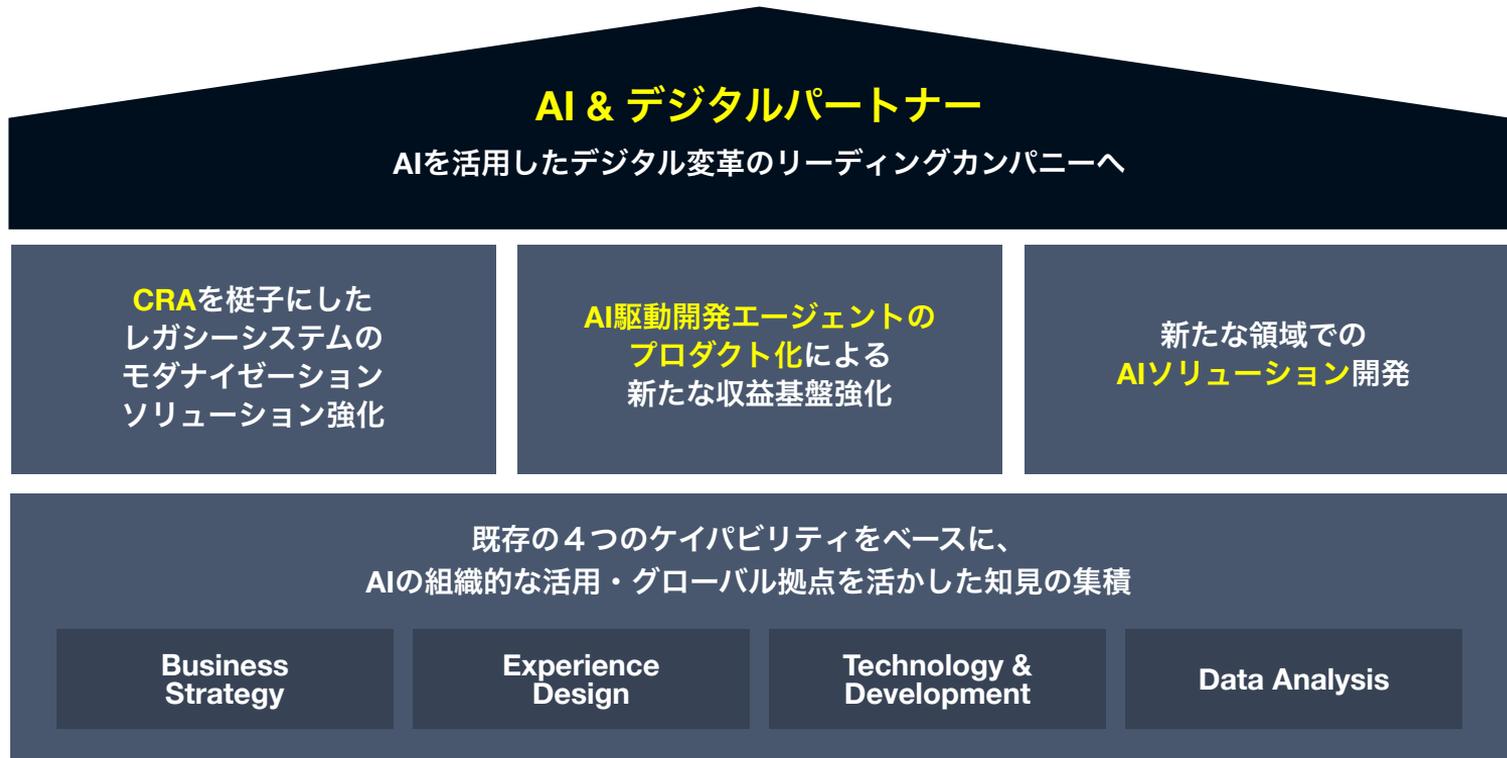
松島 栄一

常務執行役員 /
APAC地域エンタープライズ
統括責任者

Profile

外資系コンサルティングの製造業・オートモーティブ（自動車）産業の事業部リーダーとして、国内外の製造業界に対し新規事業戦略、ビジネストラansフォーメーション、ITトランスフォーメーション、組織改革などのコンサルティング実績を保有。特にERP（SAP）の導入や運用においてはプログラマーとしても高い専門知識と豊富な経験を有し、25年間にわたりインダストリーコンサルタントとしてSoR領域での大規模プロジェクトのBPRに従事。

モンスターラボの4つのケイパビリティとグローバル知見にAIを掛け合わせ、独自の競争力を創出。AI・デジタル領域で業界を牽引



2023年12月のCRAを皮切りに、AIを活用した独自ソリューションの開発を継続。 2025年下期に向けてAI駆動開発のプラットフォームをローンチ予定



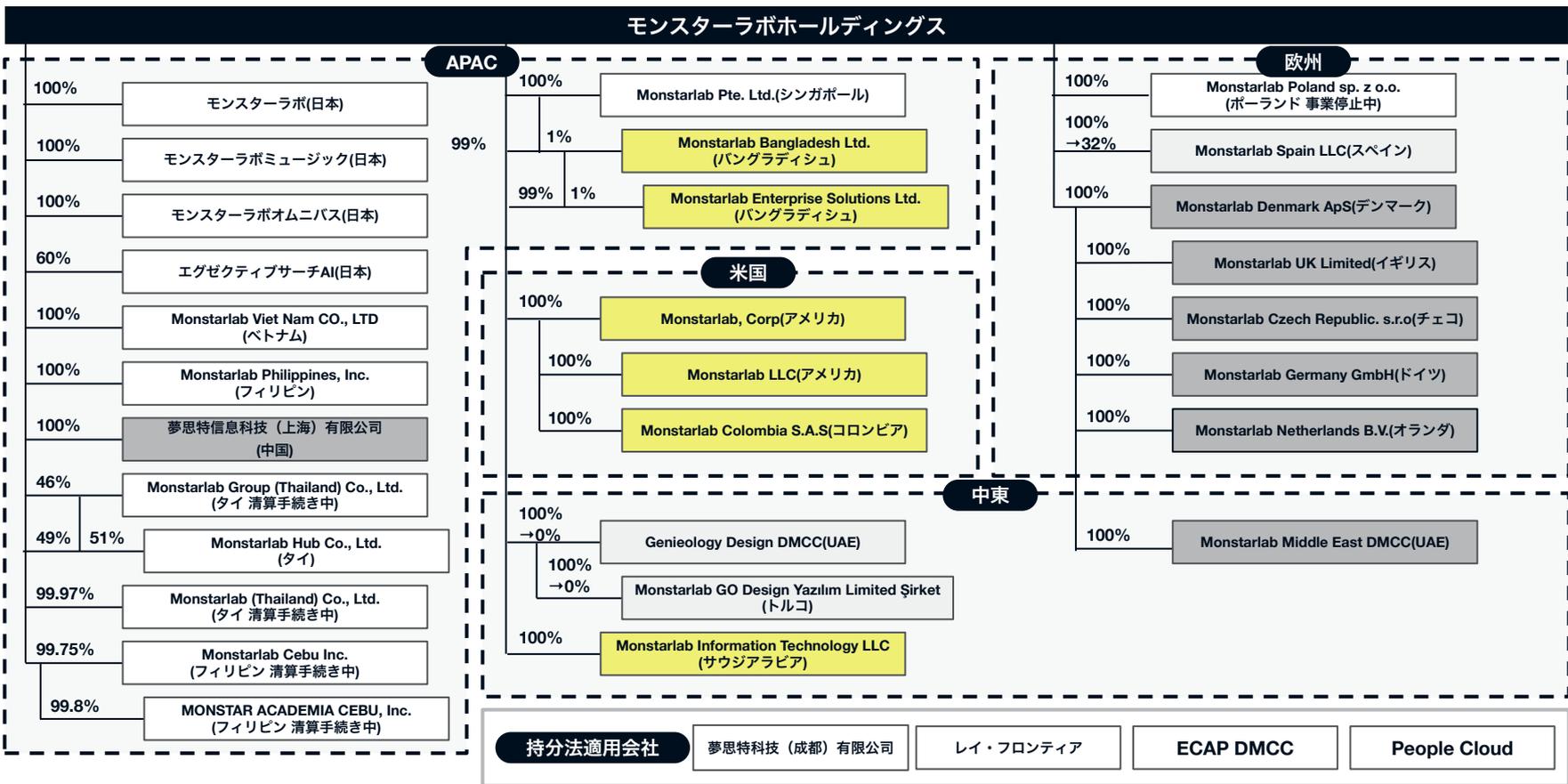
Appendix

A photograph of three people in a meeting room. A woman in a black shirt and jeans stands on the left, pointing at a laptop. A woman with glasses and a grey blazer sits in the center, looking at the laptop. A man in a white polo shirt stands on the right, leaning in to look at the screen. The laptop has 'Monstarlab' written on it. In the background, there is a world map on the wall and a light blue chair.

資本関係図

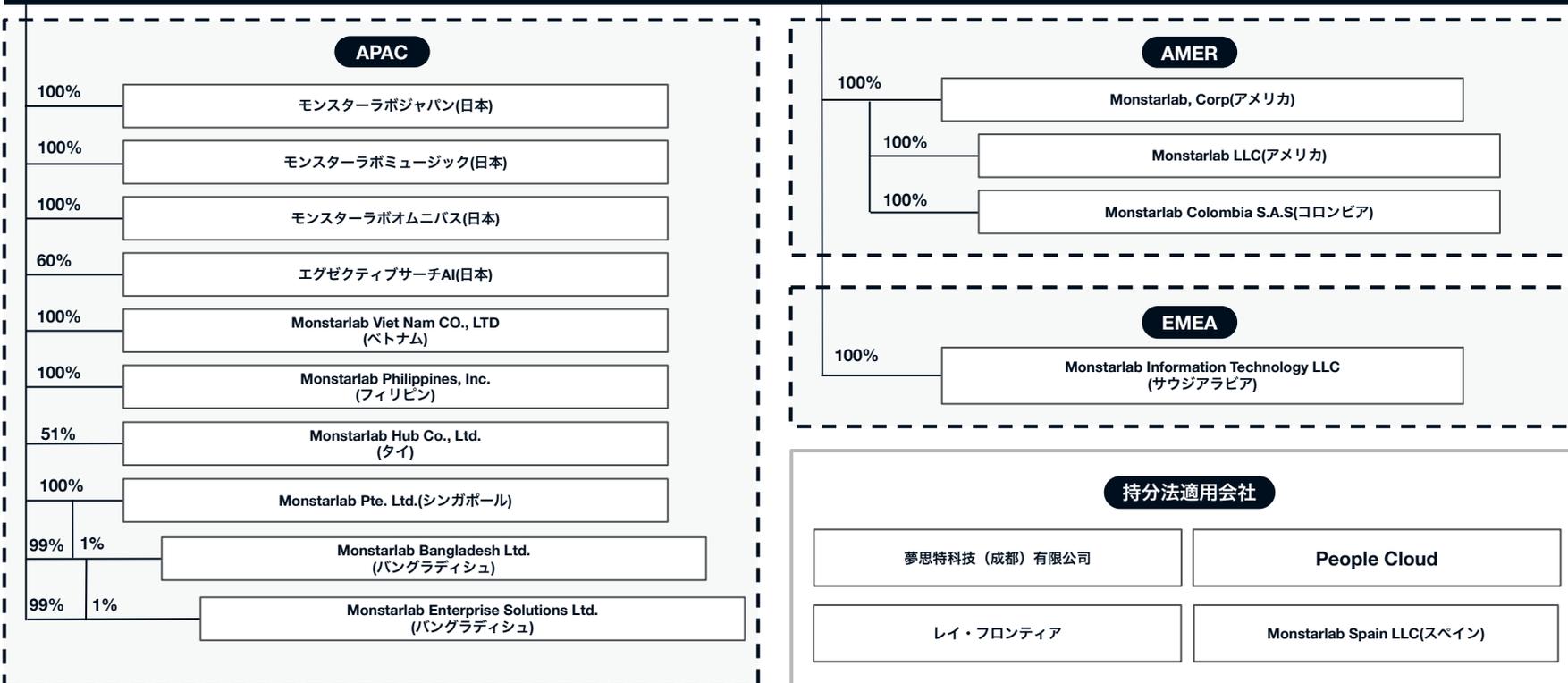
構造改革前資本関係図

■ 人員削減 ■ MBO ■ 破産・清算に伴う連結除外

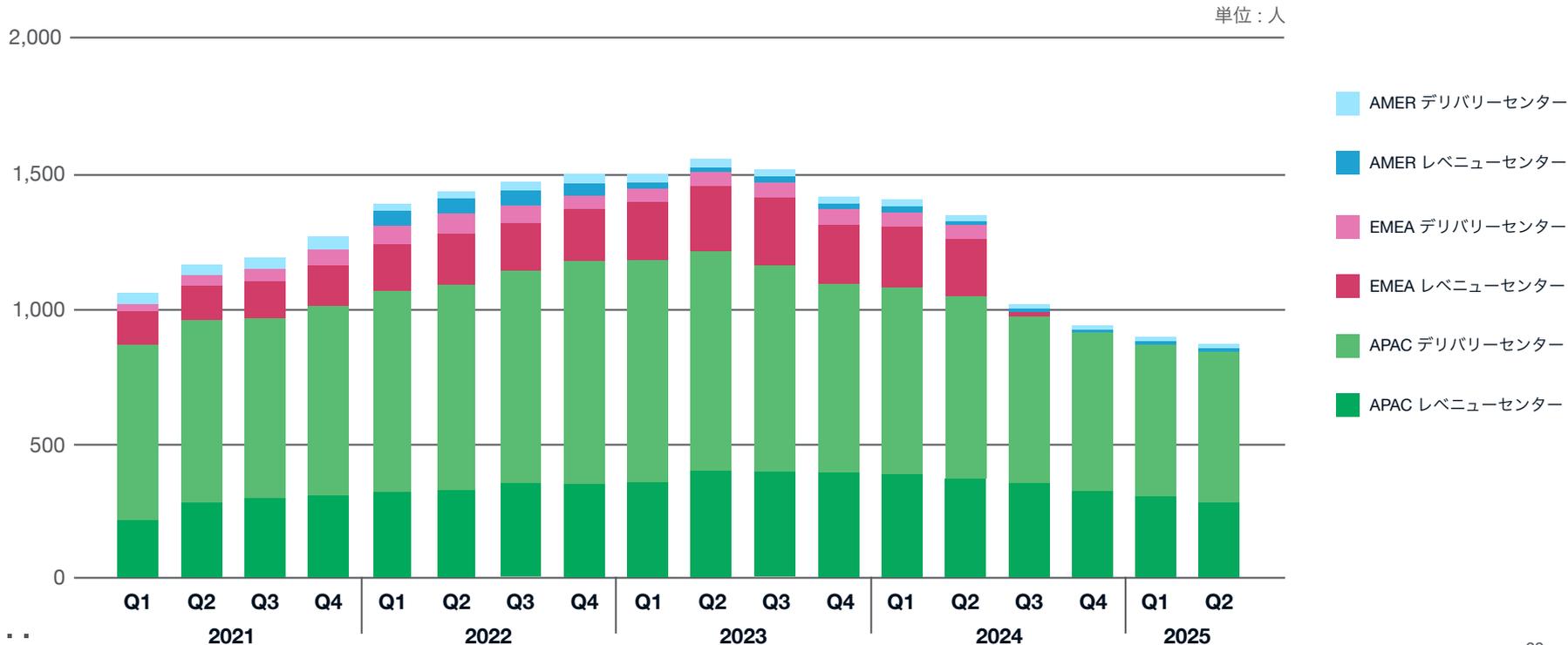


構造改革後資本関係図

モンスターラボ



EMEAを中心とした構造改革によりAPAC、AMERを中心とした体制に。 人員数縮小傾向に対してはAI駆動開発等による1人あたり生産性向上や採用活動により 収益力を確保する



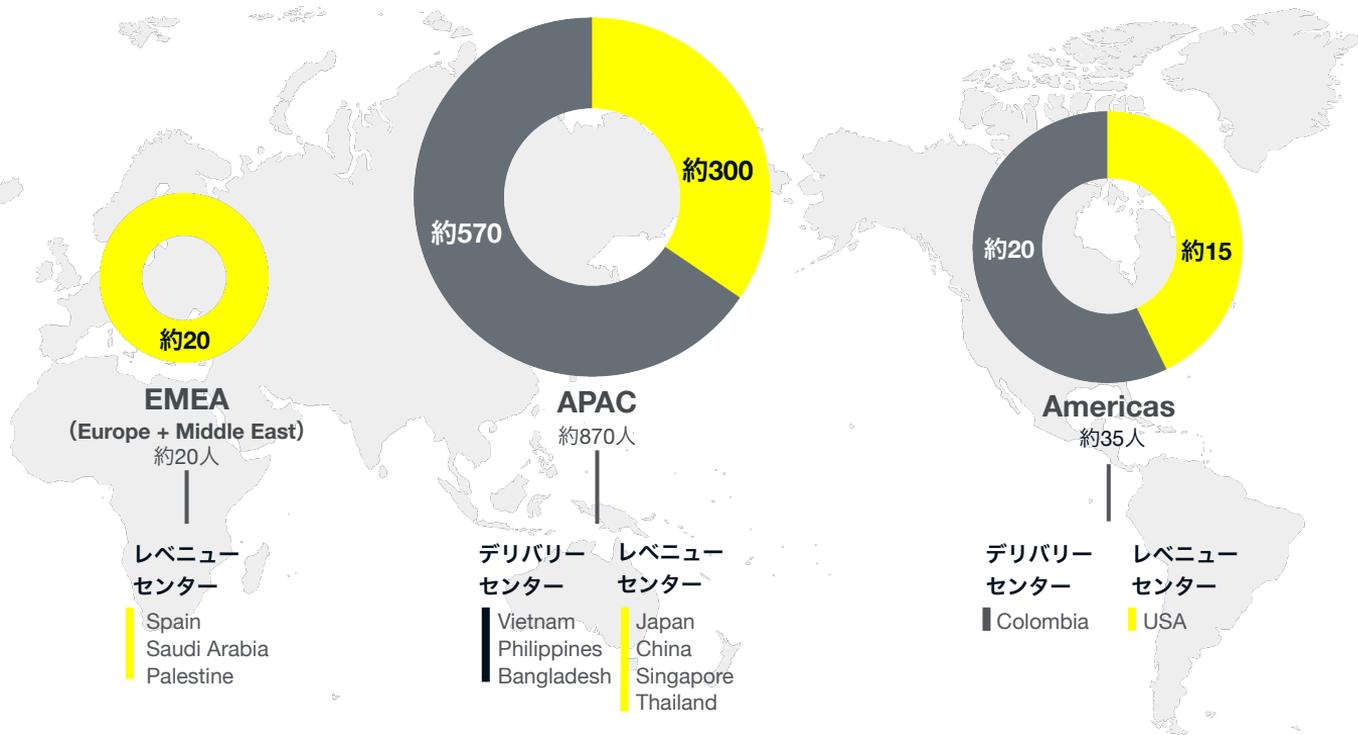
日本・西欧・北米を中心としたレベニューセンターと、東南アジア・南米を中心としたデリバリーセンターから構成される、グローバル約920人の体制を構築

展開地域

12カ国 **20**拠点

社員数

約 **920**人



注：2025年3月末時点。拠点数は子会社のものも含む。APAC=Asia Pacific地域

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料は、株式会社モンスターラボの企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券の勧誘を構成するものではありません。

本資料で提供している情報に関しては、慎重な記載をしておりますが、その情報の正確性及び安全性を保証するものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、当社が現在入手している情報をもとに、作成時点において当社の判断で記載したのになります。また本資料には、当社の計画や戦略、業績の見通し等、将来の見通し及び推測に関する記述が含まれており、これらが記載通りに達成される確約や保証を与えるものではありません。今後、経済状況の変化、当社が提供するサービスのニーズの変化、法令改正、世界情勢の変動リスク、その他様々な不確定要素により、実際の業績が将来の見通し及び推測と異なる場合があります。したがって、これらの将来に関する記述に全面的に依拠することのないようにご注意ください。

また、独立した公認会計士または監査法人における監査またはレビューを受けていない、過去の財務諸表または計算書類に基づく財務情報および財務諸表または計算書類に基づかない管理数値が含まれていることをご了承ください。

当社は、適用法令または証券取引所の規則により要求される場合を除き、本資料に含まれるいかなる情報についても、今後生じる事象に基づき更新または改訂する義務を負うものではありません。

お問い合わせ：ir@monster-lab.com

株式会社 モンスターラボ (証券コード：5255)

Monstarlab ::

Thank you for your attention.

